

PASSION
FOR THE
BEST

健康経営の活性化に向けた格付評価について

2018年11月16日

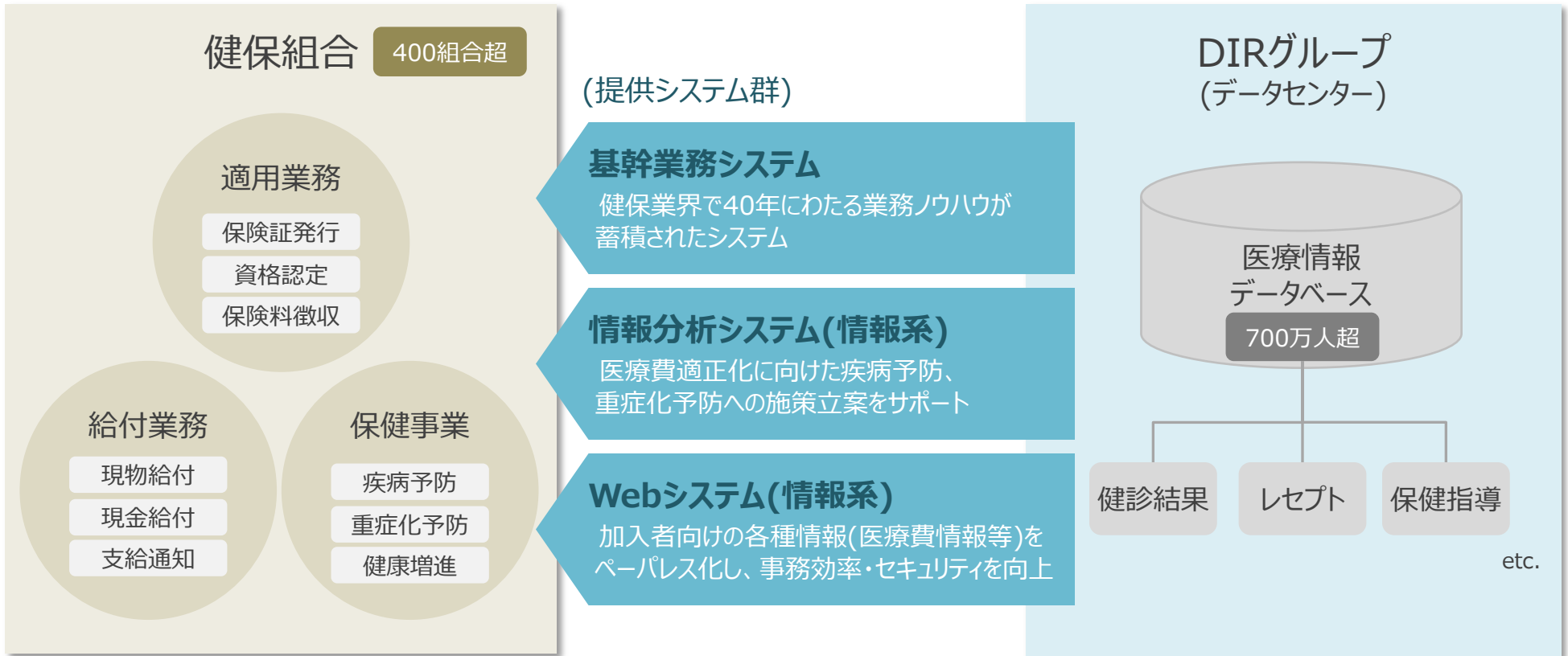
健康経営事業開発室

大和総研

Daiwa Institute of Research

1. 健保組合向けASPサービス（弊社グループ事業の一部ご紹介）

- 基幹業務に加えて、レセプト情報管理、特定健診等に至るまで、健保組合の幅広い業務をサポートするASPサービスを**400組合超の健保組合向けに展開**
- **700万人超の特定健診やレセプト、保健指導等に係るデータを管理**



2. 健康経営の活性化に求められるもの（仮説）

(1) 健保組合は財政的な余裕がないため、**企業による健康投資の拡大**が不可欠

－ コラボヘルス深化に企業が果たす役割の一つとして、積極的な健康投資により関与を高めることが挙げられる

(2) 企業による健康投資をさらに促すには、**企業経営者に対する動機づけ**が必要

－ 効果的・効率的な健康経営の高度化推進には、企業と健保組合が積極的に連携・協働することが求められる

(3) 人的投資は労働力不足を抱える企業の持続的成長、**資本市場等での評価向上**に寄与

－ 健康投資は人的資本を高め、企業の持続的成長につながるものであり、長期的な投資指標との親和性が高い

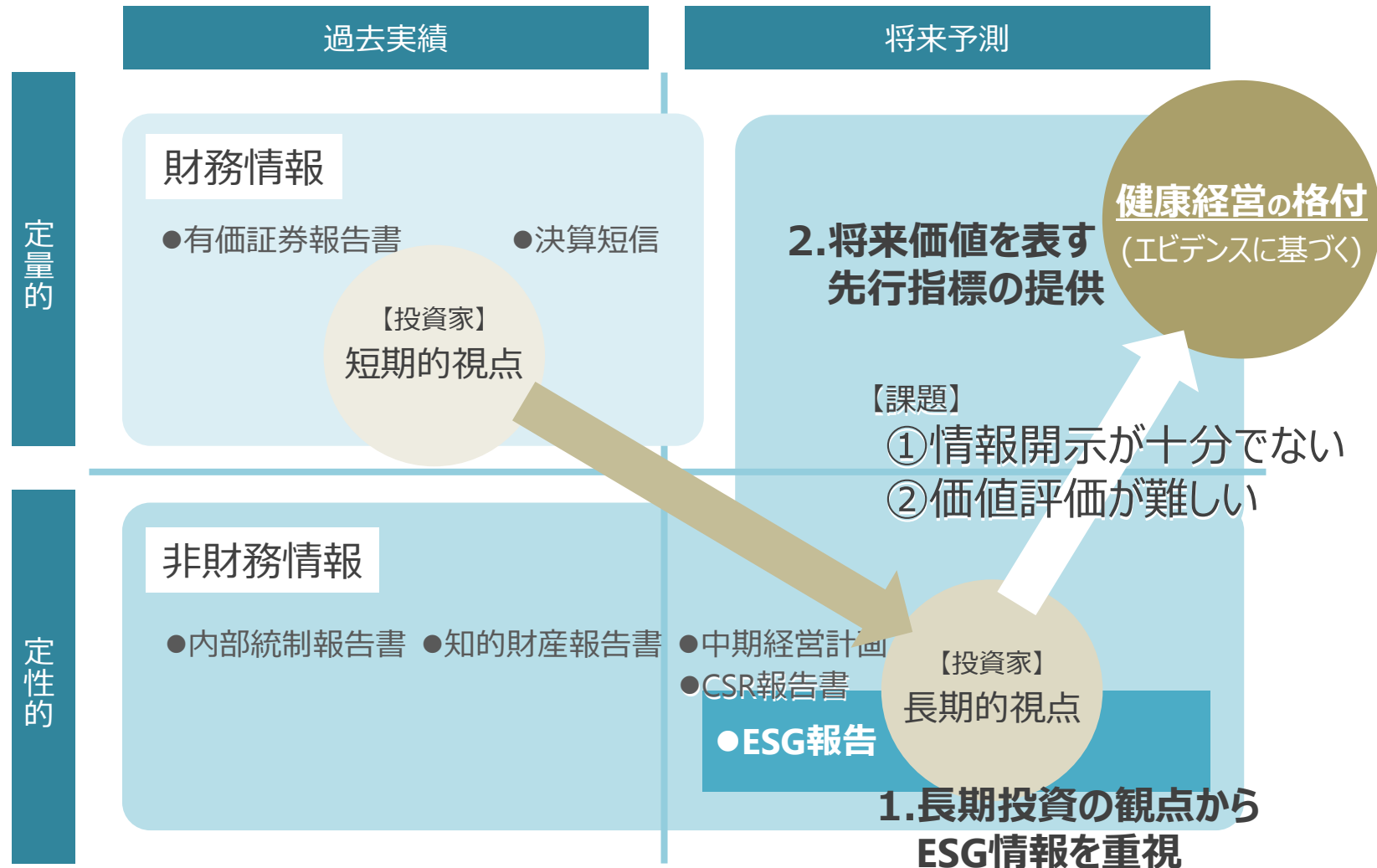
(4) 資本市場等からの企業評価の向上につなげるには、**客観的で合理性の高い根拠**が必要

－ 健康投資が将来的な企業価値に影響を与えることを説明するエビデンスをわかりやすく提示することが求められる

エビデンスに基づき投資対効果をわかりやすく示すことが
投資循環を生み出し、健康経営の活性化につながる

3. 将来価値を表す先行指標への期待（仮説）

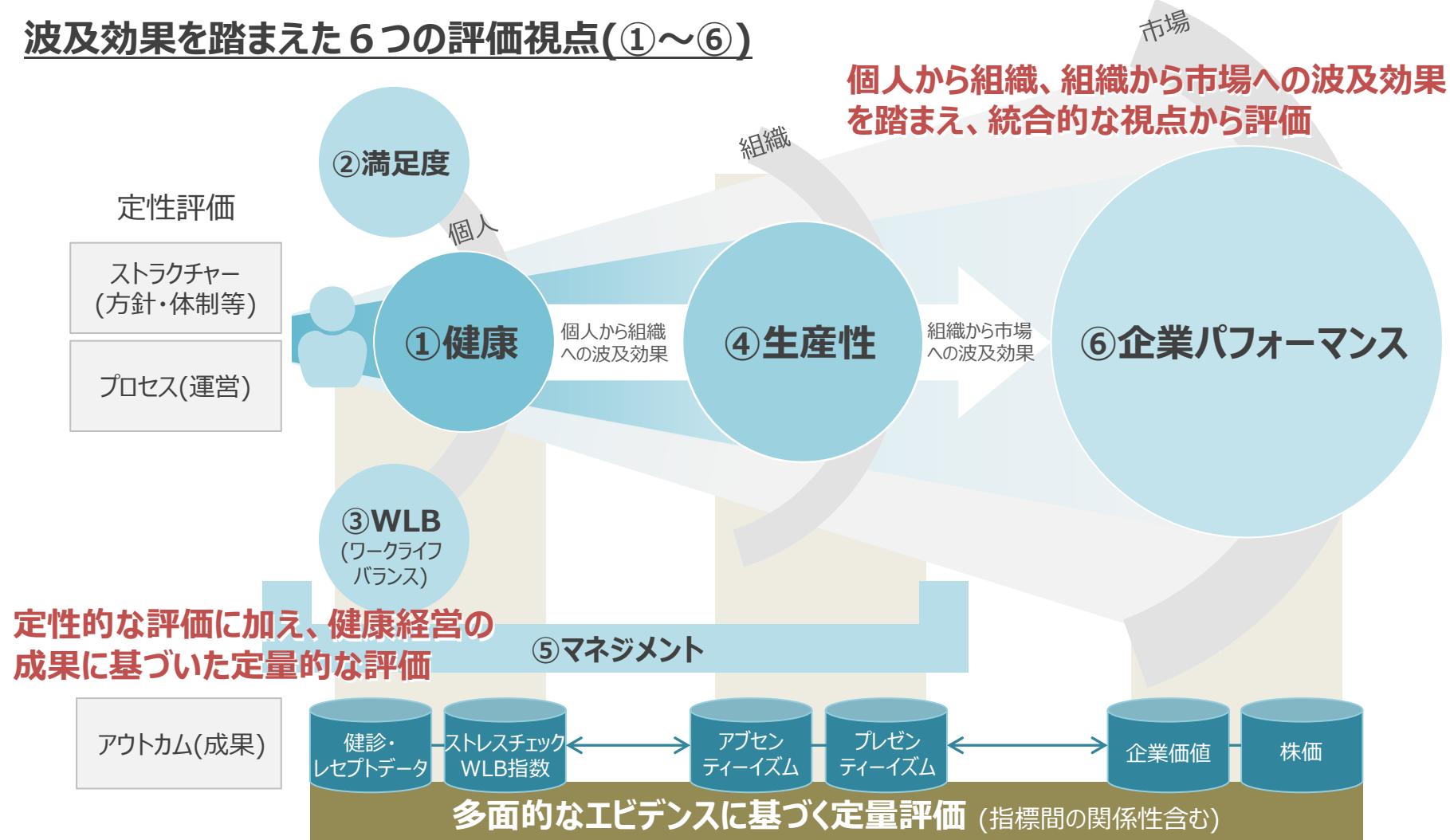
- 企業の社会的責任からもSDGsやESG投資への対応が急務であり、企業の将来価値を表す先行指標が必要
- 健康経営(人的資本)の面から総合的に評価する方法はグローバルにみても確立されておらず、資本市場等に向けた先行指標(健康経営の度合いを格付評価)はニーズが高いと思料



4. 健康経営の格付における評価視点と活用エビデンス

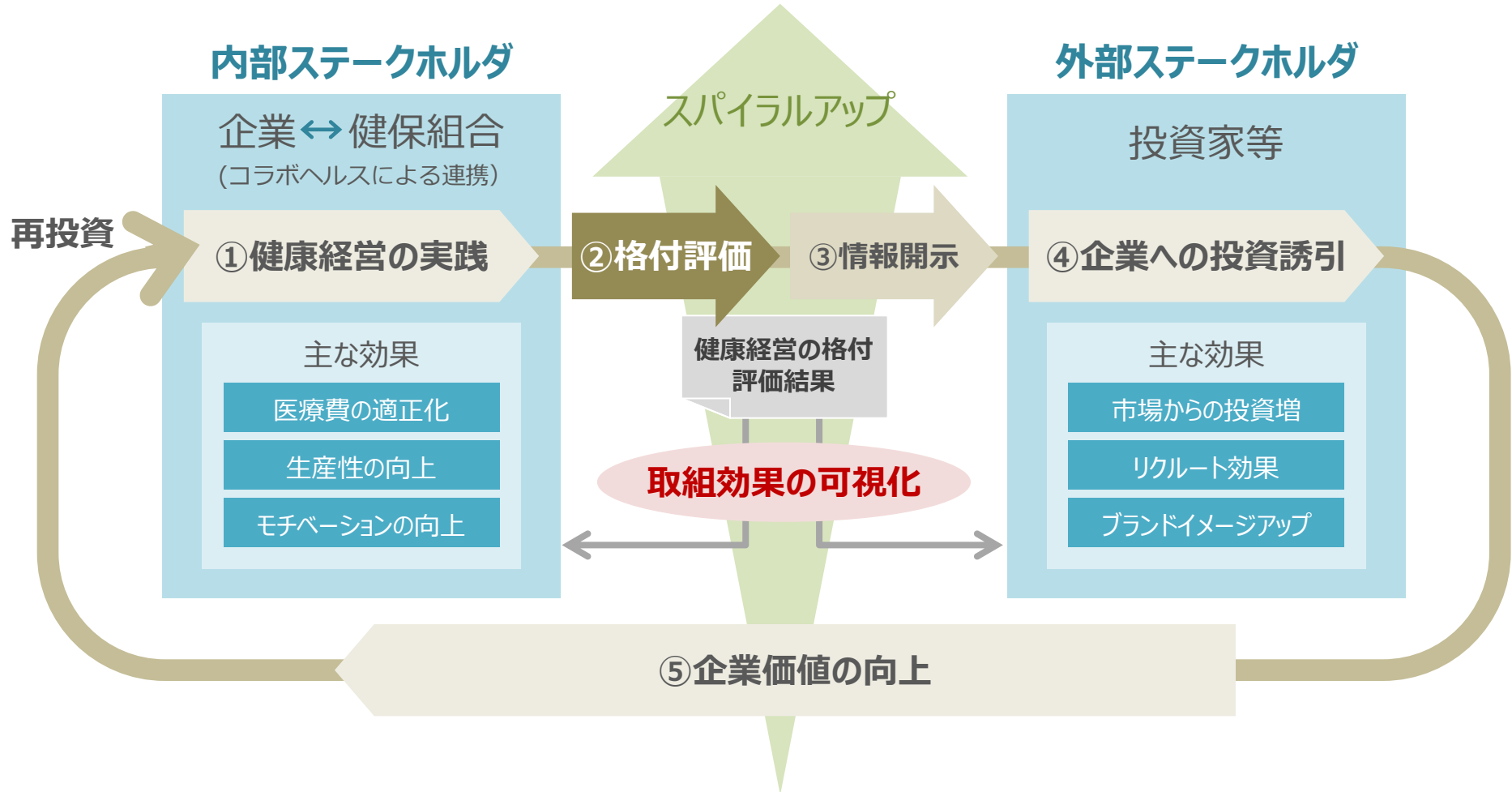
- 健康投資に対する (遅延性のある)効果との関係性を明らかにすることが肝要
- 従業員の健康から企業パフォーマンスへの波及効果を測る評価視点と、定量評価のためエビデンスを活用
- 健康経営の取組みの改善に資するとともに、資本市場における指標としての活用を期待

波及効果を踏まえた6つの評価視点(①～⑥)



5. 健康経営の格付評価を通じた企業価値の向上（概念）

- 健康経営の格付評価を通じて、**持続的な企業価値の向上**に資する循環モデルを確立
 - ✓ コラボヘルスに基づいた健康経営の実践による取組効果を可視化
 - ✓ 安定的な資金調達力・人材採用力・収益力の確保を通じた企業価値の向上
 - ✓ 得られた投資資源を活用して、健康経営の取組みをさらなる強化・改善



6. 新たな健康経営の展開に求められるもの（提言）

(1) コラボヘルス強化のために必要なデータアクセスの改善

コラボヘルス実現に向けて、企業による「健康管理」と、健保組合による「保健事業」で双方が保有するデータを相互参照できることが望ましいのではないかな。

(2) 健康経営に係る共通の評価尺度の必要性

健康経営に係る共通の評価尺度があれば、企業・健保組合だけでなく、ヘルスケア事業者や投資家等を含めて、共通の尺度で健康経営の成果を適切に測れ、持続的な企業価値の向上に資する循環モデルを確立できるのではないかな。

(3) 健康経営に係る情報開示の促進

健康経営の取組を企業への投資誘引等に結び付け、企業による主体的な取組実施を促すためには、非財務情報開示の促進が望ましいのではないかな。

投資循環を生み出す新たな健康経営のステージへ！